

⑦近世殖民史。

グアレンチン著 拓殖局編輯

一九一五年末の序文ある新版の殖民史なり。原著者はフライブルヒ大學の助教授なり。大體地理的發見時代に筆を起し、各當時の有力なる殖民帝國を代表として時代別を試み、即緒論の次に葡人、閩人、佛人、英人の順に記述し、特に英人は北米、加奈陀、印度、澳洲、南阿等に分ちて詳述し、一八七六年以後は英國の獨占を許さざる時代即新進諸國競爭の時代として之を遊星時代とし

こゝに北米合衆國、自伊諸小國の殖民を記し、最後に獨逸の殖民を述べたり。原書は行文簡潔流暢、近世殖民史として最要を得たり。只戰爭中に出でたる爲か、動もすれば筆を曲げて帝國に當り稍公正なる客觀的見地を離れたる嫌なきにあらず、其卷末に於て青島の發達を自誇自讃し「我が國民性の偉大、強健にして卓越せる途に世界の國民たるべき我等が天職は、此の地に於て成功したり」「今や獨逸は新支那の教師たり、導者たるの役に任じたり」と云ふあたりはよく獨逸思想の彷彿たるを認めしむ。(價一、八〇帝國地方行政學會發行)

⑧朝鮮地誌資料。

朝鮮の臨時土地調査局にて全道の土地調査を行ひたる結果を縮成したるものなり、大勢、行政區域、河川、山岳、海岸線、島嶼經濟等の各項に分ち、其廣袤、延長、高度、周圍、又は物價等を

最初の測定又は計量によりて數量的に記述し、別に多くの斷面圖地圖、ダイアグラム等を添へたり。朝鮮地誌の數量的記述として最新且最正確なる材料を提供したるものなり。(非賣品、朝鮮總督府出版)

⑨In the Wilds of South

America, Millar. (New York 1918)

著者は米國博物館員にて、一九一二年哥倫比亞を振り出しに、一九一六年まで、南米各地に野生動物採集旅行をなせし時の紀行文が即本書なり。其行程十五萬哩に亘り、アンデス、カリノコ、アマゾン、パラガイ河、バムバスの各地を跋渉し、其地の見聞談、採集談を面白く書き下し、讀者をして識らず知らずの間に南米の自然に接するの思あらしむ。蓋し輕妙なる紀行文と云ふべし

⑩Pacific Ports. (Frank Watohms

and Co. Seattle 1918)

航海業者の爲に太平洋沿岸諸國の貿易、輸出入關稅、噸稅、海上保險、運賃、運輸業者、主要諸港の事情、天氣信號等を記したるものにて、頗る便利なる一種の案内記なり。(以上下田)

⑪京畿府史蹟勝地調査報告 第一冊

京都市にては先年來史蹟勝地調査會を起し、管内の史蹟及名勝地の調査、表彰及び其保存を圖りたりしが、今回其事業の一とし

て調査報告を公刊するに至れり。本書は其第一冊にして、大判百四十頁、コロタイプ圖版五十枚あり。卷首には同會評議員なる京都帝國大學の三浦内田、濱田、内藤四文學博士、同じく東京帝國大學黑板文學博士の此の調査事業に關する意見を載せ、本文には調査委員文學士西田直二郎、梅原末治二氏の報告あり。記載事項は、京都市を始め其隣接の葛野、紀伊、乙訓、宇治、等の各郡より丹波の桑田郡、丹後の與謝、中、竹野、熊野の諸郡に及び、其調査の範圍も石器時代の遺跡、古墳、及發見遺品の研究、邸館、寺院舊址より佛像金石文、古文書等の各方面に亘れるを見る。其中主なるものには、聚樂第遺址、嘉祥寺舊跡、紀伊郡唐人羅木朝鮮聘禮使上陸地及び關係記録、多田方形墳の如き紀事の精細なるもの、又、天治二年在銘四面石佛、慶長年間耶蘇教信徒墓碑、太奏寺、乙訓寺、大宅寺古瓦の如き圖版と相俟ちて興趣あるもの等あり。圖版に於ては丹波丹後地方にて發見の石器時代遺品與謝郡發見銅鐸、西方寺及長安寺阿彌陀像、安樂寺藥師佛像、觀音寺所藏豐臣秀次秀頼自筆書狀の如き末だ世に知られざるもの等多し由來京都府は史蹟と名勝地に富むこと全國の第一に位すべし、従つて其調査報告が其内容に於て豊かなる亦當に然る所なり。本書の如く其報告によつて初めて世に紹介せらるゝもの多く出づるは史蹟名勝刊保存尊重の念を興起せしむる上に効あるのみならず、

又學界に諸種の資料を提供するものなり。(非賣品京都府廳發行)

◎大正五年度朝鮮總督府古蹟調査報告

朝鮮總督府が大正五年より五年計畫を以て全道に亘りて開始せる古蹟調査事業の第一年度の報告書なり。四六倍判六百頁に近き大冊にて、調査に従事せる關野、黑板、今西、島居四委員及び谷井囑托の提出せる研究報告を收め、別に卷頭附するに同府古蹟調査事業の概要を以てしたり。此の内今西委員の報告は五百三十餘頁を占め、第一京畿道蔚州郡佛巖山城址及佛巖寺調査書、第二、同高陽郡北漢山遺物遺蹟調査報告、第三京畿道廣州郡、利川郡、麗州郡、加平郡、楊平郡、長湍郡、開城郡、江華郡、黃海道平山郡調査書より成り、第三は更に之を其の地に於ける各種遺蹟の報告と高麗陵墓に關する綜括的調査報告に別つべし。黑板委員の報告は黃海道殷栗郡鳳山郡、平安南道大同郡、海州郡、安州郡、平安北道、義州郡、龍川郡、定州郡の諸地方に亘るもの、關野委員の報告書は其の年度の調査に於いて最も重大なる結果を收めたる平安郡大同郡樂浪郡の古墳を初め順川郡、龍岡郡の高句麗時代遺蹟の調査を載せたり。而して島居委員の報告は平安南道、黃海道、石器時代遺蹟に關し、谷井囑托のそれは平安南道、晚達面の特殊古墳の調査報告なり。是等の報告は其の結構一ならず、例へば一方高麗陵墓調査報告の實地結果に基き現狀構造を詳述し、之

な文辭に對比　て當代陵制研究の基礎的記載をなせるものあると共に他方紀行文に近き簡單なる報告あり、又綜括的詳論的なるあり。されど何れも其の専門の立場より研究の結果を記述せるに於いて一致し、添ふるに寫眞實測圖等各種類に亘る數百の版を以てざるは遺蹟の性質を明にする此の種の報告書として最も見るべく獨り半島の史蹟に關する知識確實となすのみならず、古代東亞史の研究上に幾多の好資料を與ふ。文誤植の甚だ多く、本文と圖版の對照の如き又相合せざるもの少なからざるは惜むべきなり。因に此の書もと非賣品なるも、一部實費を以て希望者に分與せらるべしと聞く。(非賣品、朝鮮總督府發行)(梅原)

● 雜 誌

● 經子に見えたる宋人

文學博士 桑原鵬藏
(藝文第十年第五號所載)

先秦の書籍に屢見ゆる宋人は一種の氣質を具へて、何れも癡愚頑冥の人物を代表し、其の所行は當時の世人の嗤笑嘲侮の種とな

りしもの多し。孟子公孫丑篇に見ゆる苗の成育を速ならめしむとして之を枯死せしめし語、列子天瑞篇に見ゆる窃盜をなせし語、同黃帝篇に見ゆる狙公朝三暮四の語、同楊朱篇に見ゆる園君に猷噎の愚を致せる語、又莊子逍遙遊篇に見ゆる章甫買占の語、左傳公羊傳に見ゆる宋の襄公の仁の語等は何れも其癡愚を證明する史料なるが、何故かく癡愚頑冥なりしかについては、周が殷に代りて天下を一統してより支那古代の習慣として新制度を天下に施行せしも、唯殷と特別の關係ある商土殷民は其の舊慣政俗に循ふを許ししかば、殷の後を承けたる宋國は偏に其の舊禮を用ひ、殷に對する執着心と周に對する敵愾心に驅られて必要以上に舊慣故習を固守せし結果、春秋戰國の交に及びても特殊の衣冠國風を墨守し、従つて宋人は世間の注意を惹き頑冥の人物として代表せらるゝに至りしものなりと思はる。(那波)